

114
A 1956



砂糖税賦課ニ對スル請願

謹白灰ニ傳承スレハ政府ニ於テハ今回財政計畫ノ
必要上歳入ノ不足ヲ補ハシカ為メ諸種ノ財源ニ
就テ調査セラレタリト抑モ洋ノ東西時ノ古今ニ
論ナク國運ノ伸暢ニ伴ヒ其國民力負擔義務
ノ増加スヘキハ必然ノ條理ニシテ何人モ齊シク
是認スル所ナリト虽氏其其租税賦課ノ方法タル
人民ノ苦痛ヲ少クシテ政府ノ收入ヲ多クスルニ在

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

リテ税目ノ少ナキト徴收ノ手数ト費用ノ少ナキヲ
要シ比較的ニ細民ニ輕ク富者ニ重ク收入ノ確莫
アルヲ要ス道聽途說固ヨリ信ヲ措クニ足ラスト
虽モ砂糖モ亦其新税目中ニ在リト果シテ然ラハ
當局者ハ如何ノ成算カアル世界ノ傾向ハ之ヲ保
護セント欲スルニ反シテ今日既ニ退歩シツ、ア
ル我製糖業ニ課税スルニ於テハ余輩當業者
ハ聊カ懸念ナキ能ハス今少シク其事由ヲ開陳シ
以テ參考ニ資スル所アレントス

課税上ノ困難

砂糖税ノ徴收ニ付キテハ當局者ハ如何ナル方法
ニ依リントスルカ今之ヲ單ニ關稅ニ依リテ徴收ス
ルトセハ事頗ル簡易ナルカ如シト虽モ締盟各國ニ
向テ均シク之ヲ増徴スルハ通商條約ニ於テ許
サ、ルモノアリ於此乎政府ハ内國糖ニ對シテハ三
割ヲ課シ外國糖ニ對シテハ輸入税ニ一割ヲ徴シ
タル上更ニ内地取引商ノ手ニ入ルト同時ニ三割ノ内
國稅ヲ賦課スルニアリト聞ク此方法タル一見良
好ノ方案タルカ如シト虽モ仔細ニ之カ觀察ヲ下セ
ハ事實ニ迂ナルヲ奈何セン今日英通商條約議

定書第四項ヲ觀シハ日本國ニ於テ砂糖ニ課税
ヲ為スノ場合ニハ英國ノ精糖ニ對シ其内國税ト
同額ニ増加スル所ノ関税ヲ課スルコトヲ得ト規
定シアルニアラスヤ果シテ然ラハ前頭ノ方法ニ
依リテ徵税スルモノトセハ英國ハ之ヲ默過ス
ヘキカ想フニ直チニ之カ抗議ヲ申込来ルハ必然
ナリトス何トナレハ今後施行セラルヘキ税関法ニ
依リテ一割ヲ拂ヒタルモノカ更ニ内地ニ於テ三割
ノ課税ヲ受クルモノニシテ事實ニ於テ四割ノ
関税ヲ課セラルト同一ナルニ依リ全然此約款

ニ乖及スルヲ以テ權利ト利益ノ上ニ於テ其打
撃ヲ蒙ルモノ歎ナカテサルニ依リ事理ニ敏ナル
英國民カ父シテ之ヲ雲烟過眼視スルノ理ナケ
レハナリ然レモ假リニ之等ノ故障ヲ排スルトセシ
モ其徵税ノ煩雜ナル殆ト名状スヘカヲサレモノアリ
例之爰ニ一外人ヤリ規定ノ関税ヲ拂ヒテ現品ヲ
引取リ更ニ一日本人ト結托シ自己ノ雇人ト称セ
シメ各地ニ販賣スルモノアリテ政府ハ徵税ノ手
段頗ル困難ニシテ迄ヒテ多數ノ脱税品ヲ出スニ
至ラン而シテ此種ノ悪手段ヲ慣用シ巧ニ競争

場裡ニ莅ムモノアラハ正當ナル内國ノ糖業者ハ到底失敗ヲ招クニ終ラシム而カモ不幸ニシテ此稅按ノ遂行ヲ見ルニ至ラハ我國斯業ノ衰滅ヲ來スヤ必セリ豈寒心ノ極ナラスヤ矧ンヤ砂糖ノ種類タル十ヲ以テ數フルモ尚足ラサルヲ以テ課稅ノ標準ヲ定ムルニ困難ナルモノアルニ於テオヤ而シテ此ニ亦大ニ當局者ノ警省ヲ乞ハント欲スルモノアリ何ゾ曰リ台灣糖ニ對スル課稅ノ方法ナリトス今之ヲ便宜上同地方ニ限リ今固ノ課稅ヲ為サストセンカ同島モ亦版圖ノ一部タル以上ハ之ニ母國ト同一ナル課稅

ヲ為サスルノ理由ヲ首肯スルニ非ザルヨリハ締盟各國力之ヲ不問ニ措カサルニ火ヲ觀ヨリ瞭カナリ然ラハ均シク之ニ課稅センカ從來其産額ノ支クカ支那大陸ニ向テ輸出セラレ比律賓、瓜哇等ノ産糖ト競争シテ大ニ優勢ナルモノ主トシテ其價格ノ低廉ナルニ職由スルモノナルヲ今此ノ突飛ナル課稅ノ為ニ同島製糖ノ輸出ハ全ク杜絶ヲ來シ糖業ノ衰滅ヲ招クニ至ルヤ必セリ今ヤ臺灣ノ事實ニ憂慮スヘキモノ一ニシテ足ラヌ物産豊富ニシテ歐米各國カ環視瞻望此美ナル島嶼ニ垂涎シツ、ア

ルニ係ラス比較的歳入額ノ歎少ナル時ニ於テ今
又此苛重ノ税歛ヲ為ノニ同島主要ノ産業ヲ萎
靡セシムルニ至ラハ國家經濟上打算ノ妙ナルモノ
ト云フヲ得ンヤ

内地ノ糖業ヲ絶滅ス

砂糖ハ今日奢侈品ニアラスシテ塩ト全シク人
生缺ク可カラサル日用品ニシテ文運ノ進ムニ伴ヒ
其消費ノ増加ス可キモノトス我國ニ於テモ亦比
年増加シ来リ今ヤ一年三千余万円ノ消費額
ヲ見ルニ至ル而シテ其大部分ハ輸入ヲ仰ク是ニ

於テカ現今漸ク精糖業ノ興ルモノアルモ事業
尚創始ニ屬シ未タ充分ナル成績ナリ僅カニ
輸入ノ一部ヲモ防ク能ハス故ニ此際能フヘクニハ
政府ノ保護ニ依リ一層ノ發達ヲ促シ全ク輸
入ヲ防遏センコト吾人ノ期望スル所ナリ之ヲ聞
ク海外各國又斯業ニ付充分ナル保護法アリト
理ノ當ナニ然ルヘキモノナラシ現時我國ニ輸入
スル精糖ハ主トシテ香港製ヲモノニシテ該品ハ原
料ヲ比律賓及爪哇其他ニ仰キ以テ精糖シ之ヲ輸入
シ来ル然ルニ我國ノ如キハ香港ニ比シテ全然

原料ヲ他ニ仰カス而カモ給水ノ石炭ヨリ高ク勞
銀ノ不慮ナル等製作上ノ不利益多キニ反シ百
事低廉ナルヲ以テ特殊ノ保護ナキモ漸次輸
入ヲ防遏スルヲ得ルハ一期シテ待ツヘキノ然
ノミナラス將サニ實施セラレントスル關稅法ニ
依レハ輸入精糖ニハ一割粗糖ニハ五分ヲ賦課スト
アリ依之觀之粗糖ヲ資料トシテ精製業ニ從事
スル者在リテハ精糖價額ト粗糖價格トノ差額ヲ
擧ケテ經費一切ヲ辨了スルモノトスルモ尚五
分ノ利益ヲ享有スヘキノ理ナルヲ以テ優ニ外

糖ト輸贏ヲ争フヲ得テ益々斯業ノ榮伸ヲ促
カシ蘄然工業界裡ニ雄視スルノ機運ニ遭遇
セントスルノ秋ニ於テオヤ然ルニ我當局者ハ此ノ
如キ理義ノ明瞭ナルニ係ラズ左迄多カウガ
ル收入ヲ得シカ為メニ新メニ而カモ突飛ナル
奇重ナル課稅ヲ徵シテ斯業ノ不振ヲ招キ益
々輸入ノ過大ヲ來サントスルハ實ニ國家百年
ノ猷計ヲ謬ルモノニアラスシテ何ツヤ翻テ政
府若シ精糖ニ而已賦課スルトセハ如何是レ
亦大ニ憂フヘキノ事アリ何トナレハ如此ンハ

必然ノ結果トシテ粗糖ト精糖ト、兩者價額ノ
差大ニ即チ実体的ニ精糖價額ノ暴騰トナル
ヲ以テ勢ヒ之ガ敗路ノ沮害ヲ来タシテ粗糖ノ
輸入増加スルカ故ニ從來精糖ニ力ヲ分チタリシ
外人ハ力ヲ集注シテ粗糖ノ輸入ニ従事スルニ至
リ益々價格ノ廉ナルモ、ヲ輸入セハ自然ノ結
果目下ニ於テスラ内國ノ粗糖ハ輸入粗糖ニ比シ
テ價格ノ不廉ナルヲ以テ數等ヲ輸シツ、ハ、アル
ニ由リ粗糖ノ需要ハ茲ニ全ク輸入ヲ仰キ内國
ノ産糖業者ハ絶滅ノ不幸ヲ見ルニ至ラン加之

獨リ精糖ニ而已課税スルトセハ類似ノ粗糖ヲ
以テ内地ノ精糖ニ模擬シテ脱税ノ悪手段
ヲ廻ラスモノアルニ至ラン例之精粗ノ區別即チ
砂糖ノ標本タル和蘭十四番ト十五番トノ間ノ品
質及ヒ色澤ノ不判然ニシテ當業者スラ一見之
レカ鑑識ニ苦ムモノナルヲ利用スルカ若クハ全ク
精糖ヲ或ル一種ノ作用ニ依リテ変色セシムル等ノ
手段ヲ以テ脱税ヲ計ルハ誠ニ易々トランノニ果
モテ然ラハ政府ハ如何ナル手段ニ依リテ之カ
鑑識ヲ為スカ實ニ疑ナキ能ハス否ナ寧ロ口鑑

識ノ方法ナシト云フモ過言ニアラサレナリ
 之ヲ要スルニ本税目ノ如キハ所謂消費税ナ
 ルヲ以テ徒ラニ徴收ノ手数ト弊害トアリ且ツ之
 カ為メニ痛苦ヲ感スルハ富者ニアラズシテ細民
 ナルト共ニ之カ收入ノ見込モ亦不確ナルニ於テ
 ハ爰シテ適當ノ財源ト云フヲ得ス我國ノ状態ニ
 シテ財源涸枯セルモノトセバ則チ已ハ苟モ然ラザル
 ニ於テハ何ヲ苦ンテ斯ノ如キ不當ノ課税ヲチ
 サントスルカ茲ニ事情ヲ陳ベ當局閣下ノ賢察ヲ
 仰ク所以ナリト云ヒ結 恐惶々々

小舟三引製

明治三十一年十月

東京砂糖同業組合三十五名

總代 松本 森之郎

小林 孫兵衛

方波 貞平兵衛

栗林 幸助

金子 秀次郎

原 三藤 吉

内田 得之助



